

(プレスリリース仮訳)

ABACは金融セクター改革での継続的官民対話を強く求める

8月24 - 27日のAPECビジネス諮問委員会 (ABAC) タイ・バンコック会合で、ABACは、APEC首脳金融規制改革への努力と、規制当局や政策立案者に対する民間部門との対話継続の指示に (G20やバーゼル銀行監督委員会 (BCBS) 等の場での) 謝意を表明した。

ABACは重ねて金融税賦課は、取引コストを削減し地域金融統合を高めようとするAPECの努力に対して直接逆効果をもたらすとした。また、ABACは資本バッファやプロシクリカティー、発生損失モデル等を含む種々の重要な問題点が政策立案者や規制当局との間で議論継続中であるとしている。更に、ABACは金融規制改革の必要性と、世界規模での協調と共同歩調が重要であることを認めている。

金融規制改革に関連してABACから表明された様々な見方は次の通り：

- 新しい規制が、危機後も比較的良好であったアジア太平洋地域における金融仲介機能と資本市場を阻害しないよう、十分な官民対話が維持されるべきであること。
- 新しい規制を導入する時期を決定するに当たり、十分な注意と思慮を持った判断がなされるべきであること。
- 新しい規制の効果をより良く理解するために、規制の影響度が調査検討されるべきであること。
- 新しい規制が、産業や消費者全体にとって追加的な費用を不公平に発生させないようにするべきであること。

ABACはこの6月にトロントにて発表された、金融機関にとっての新しい資本の枠組みは、持続的な経済回復に沿い、かつ市場への悪影響を限定的なものとするために、時間をかけて導入するというG20の声明を歓迎する。またABACは資本の定義を再検討するために民間部門の見方を考慮し、さらにレバレッジレシオについて段階を追って導入するというBCBSの最近の決定を歓迎する。

ABAC委員はこれらの提言について、来る11月のAPEC財務大臣との対話において議論する予定である。